持てるすべてを「いのち」に向けて。
Dedicated to sustaining all life.

2021年度半期決算概要説明資料

NORINCHUKIN
農林中央金庫

2021年11月17日

2021年度半期決算の概要

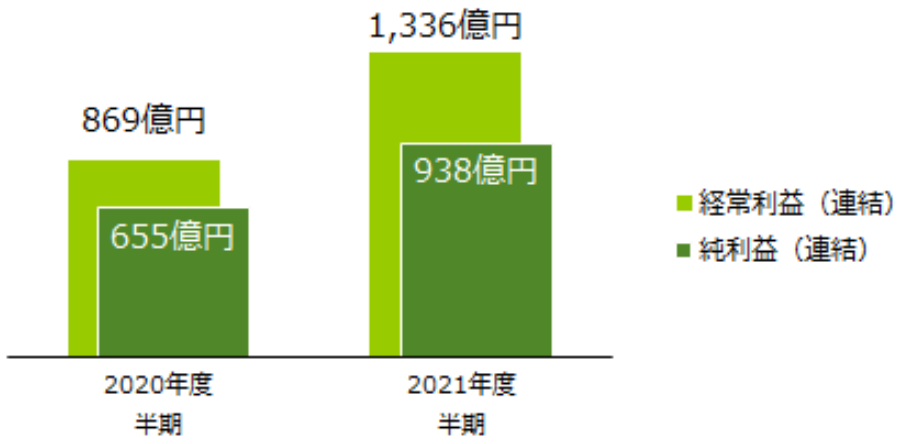
2021年度半期決算の総括

- **外貨調達費用の減少等もあり、安定的な収益を確保。自己資本比率は引き続き高水準**

収益

【連結】 （単位： 億円）

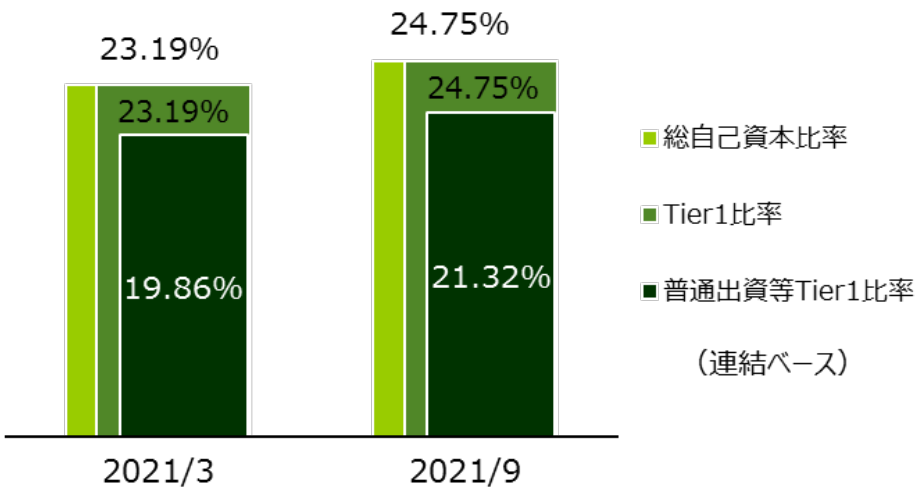
	2020年度 半期	2021年度 半期	増減
経常利益	869	1,336	467
純利益	655	938	283



自己資本比率（バーゼルⅢ国際統一基準）

＜バーゼルⅢ基準＞
【連結】

	2021/3	2021/9	増減
普通出資等Tier1比率	19.86%	21.32%	1.46%
Tier1比率	23.19%	24.75%	1.56%
総自己資本比率	23.19%	24.75%	1.56%



農林中央金庫

損益の状況

- **外貨調達費用の減少等もあり、安定的な収益を確保。**
- **与信関係費用は前年同期の将来予測を踏まえた引当金繰入損の剥落を主因として費用が減少**

【連結】 （単位： 億円）

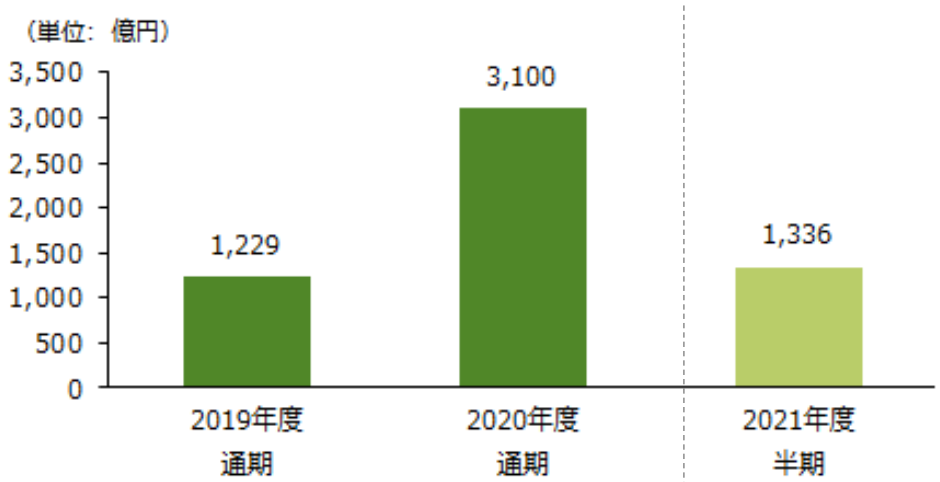
		2020年度 半期	2021年度 半期	増減
1	経常収益	5,922	6,312	389
2	うち資金運用収益	4,310	2,893	▲ 1,416
3	（有価証券利息配当金）	3,718	2,354	▲ 1,364
4	（貸出金利息）	509	464	▲ 44
5	経常費用	5,053	4,975	▲ 77
6	うち資金調達費用	3,423	2,562	▲ 860
7	（信連等調達費用）	1,574	1,466	▲ 107
8	うち事業管理費	707	720	13
9	経常利益	869	1,336	467
10	税引前純利益	867	1,341	474
11	親会社株主帰属純利益	655	938	283

【単体】

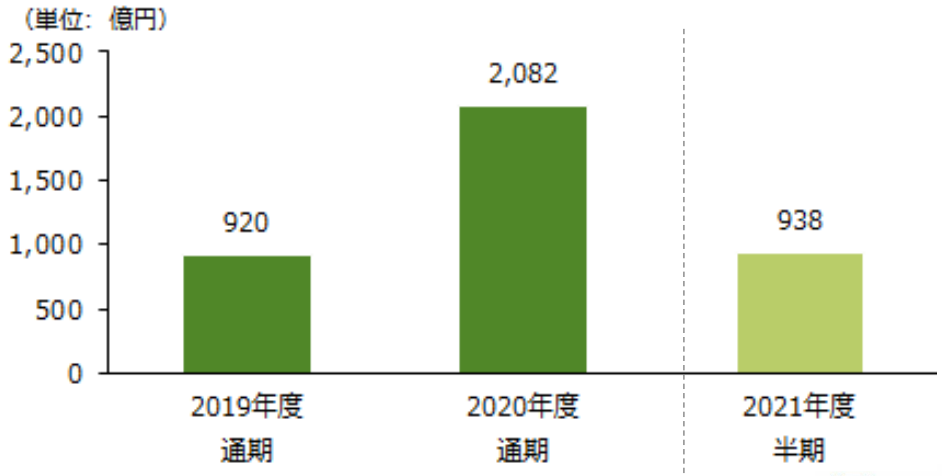
		2020年度 半期	2021年度 半期	増減
12	経常利益	918	1,267	349
13	純利益	724	901	177
	【参考値（単体）】			
14	有価証券売却損益	204	113	▲ 90
15	投資信託解約損益および金銭の信託内売却損益	50	▲ 750	▲ 801
16	与信関係費用（▲）（注）	460	▲ 135	▲ 596
17	有価証券償却（▲）	70	20	▲ 49

注：与信関係費用のマイナス（▲）は戻入

経常利益の推移（連結）



純利益の推移（連結）



農林中央金庫

バランスシートの状況

▪ 有価証券等は売却・償還等により減少

【連結】 （単位： 億円）

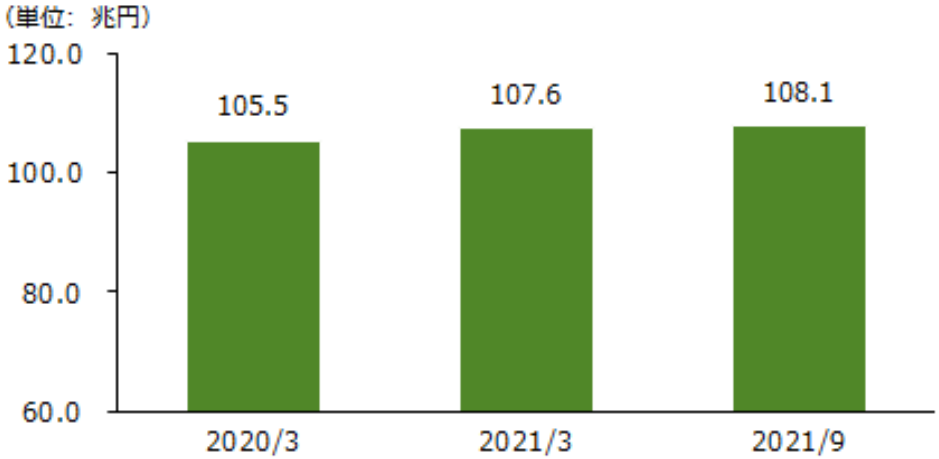
		2021年3月末	2021年9月末	増減
1	貸出金	221,025	224,823	3,798
2	有価証券	480,938	442,696	▲ 38,241
3	金銭の信託	106,385	99,336	▲ 7,049
4	現金預け金	200,669	234,080	33,411
5	その他	67,458	80,356	12,898
6	資産の部合計	1,076,478	1,081,294	4,816
7	預金等 (注)	665,299	677,551	12,252
8	農林債	3,554	4,078	523
9	売現先勘定	170,739	180,695	9,955
10	その他	157,329	137,379	▲ 19,949
11	負債の部合計	996,922	999,704	2,782
12	純資産の部合計	79,555	81,589	2,034

注：預金等は会計上の預金および受託金（会員からの短期資金受入が大半）

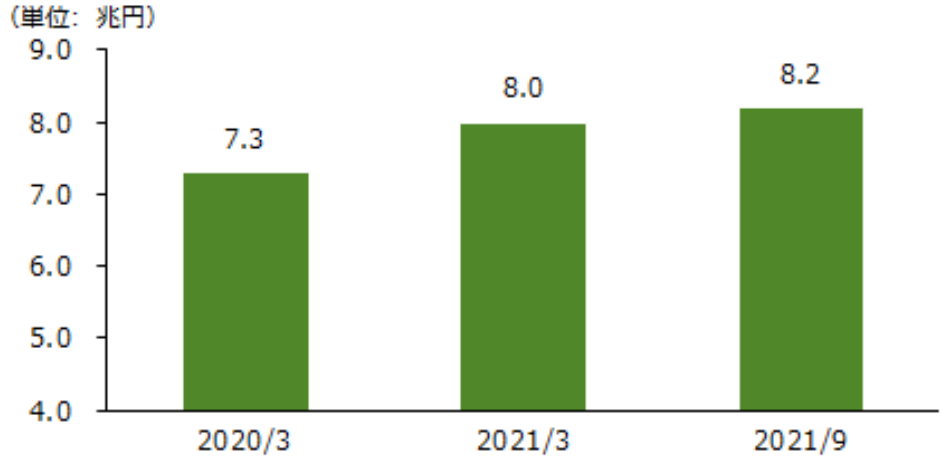
【単体】

		2021年3月末	2021年9月末	増減
13	資産の部合計	1,052,381	1,055,399	3,018
14	負債の部合計	974,120	975,194	1,073
15	純資産の部合計	78,260	80,205	1,944
16	その他有価証券評価損益	26,839	29,214	2,375

総資産の推移（連結）



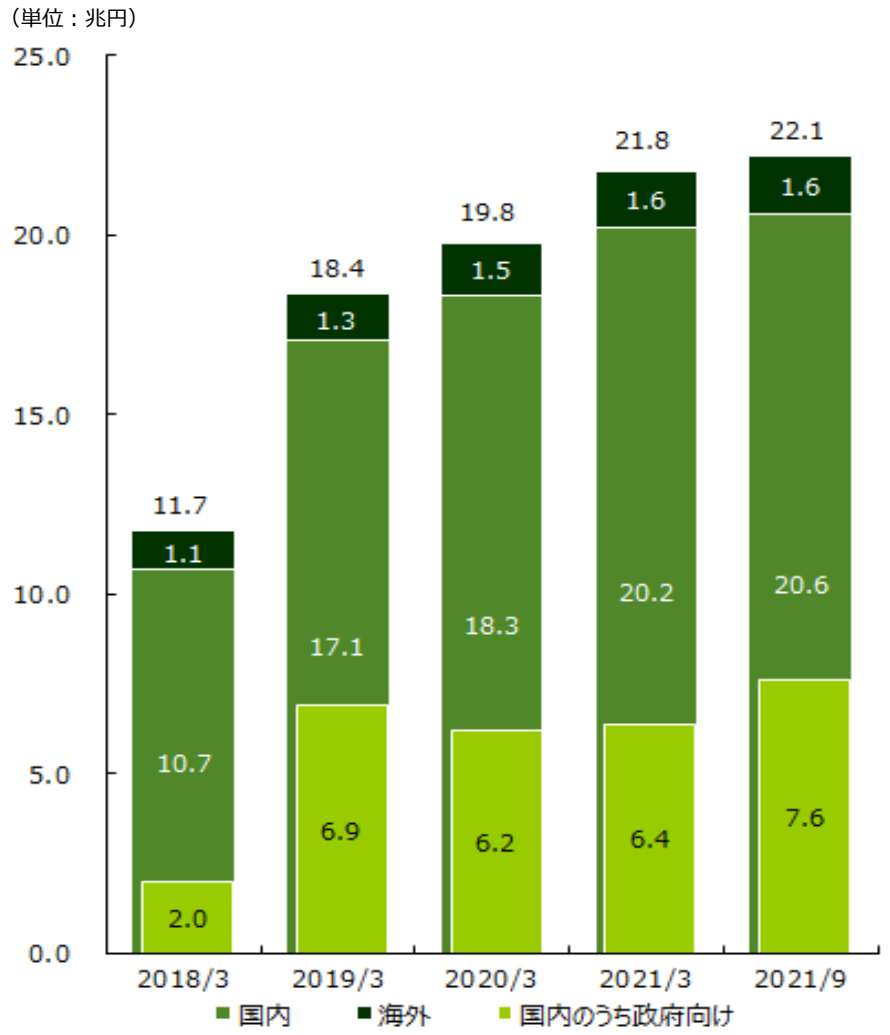
純資産の推移（連結）



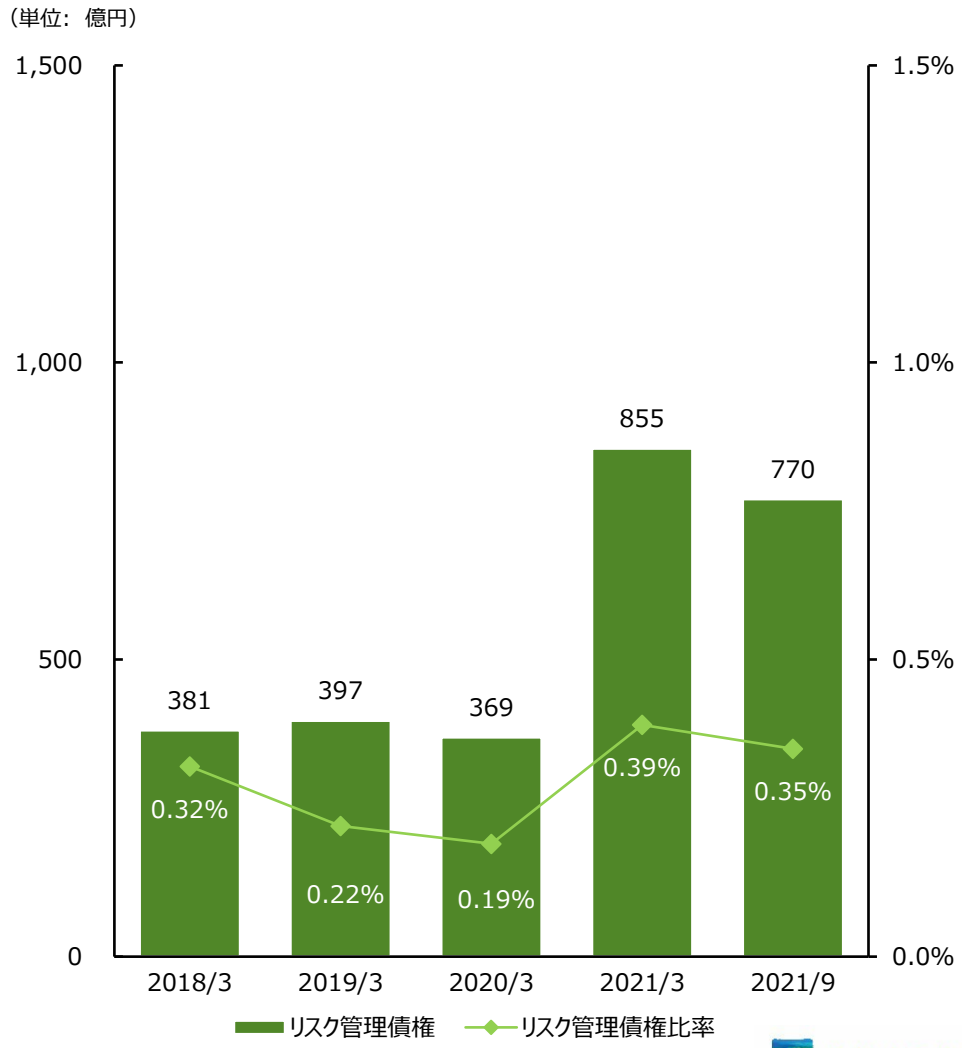
貸出金の状況（単体ベース）

- 国内の貸出等の伸長を受けて貸出金は引続き増加傾向
- リスク管理債権残高・リスク管理債権比率は低水準を維持

貸出金残高の推移



リスク管理債権の推移

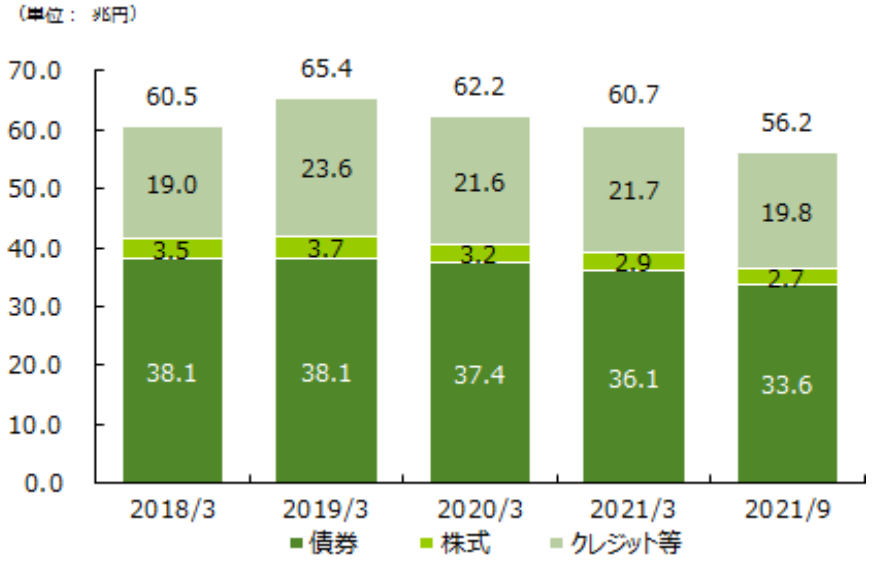


農林中央金庫

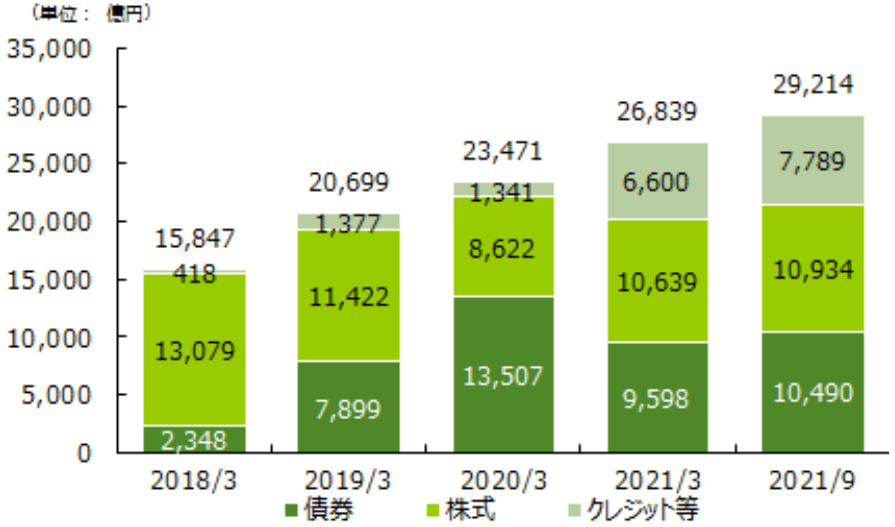
市場運用資産の状況（単体ベース）

- **有価証券評価益は2兆9,214億円。市場運用資産のうち約9割をA格以上の資産が占める**

市場運用資産残高の推移

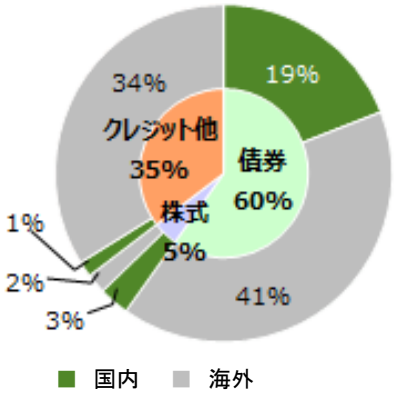


有価証券評価損益の推移

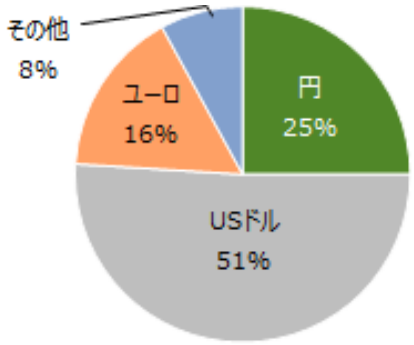


市場運用資産の状況（2021年9月末）

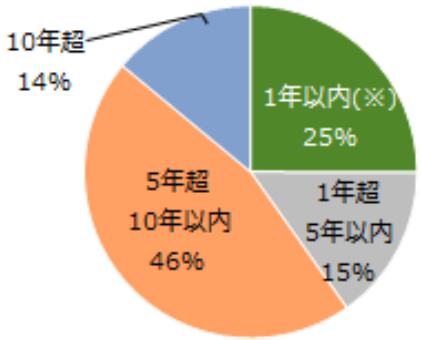
市場運用資産 リスク別内訳



市場運用資産 通貨別内訳

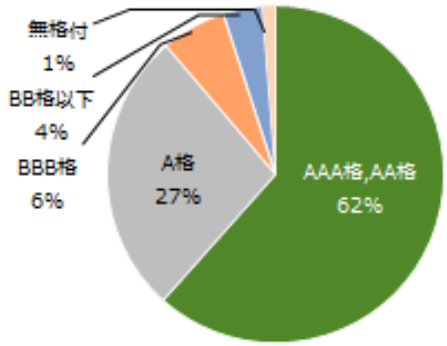


市場運用資産（満期がないものを除く） 金利更改満期別内訳



※変動金利も含む

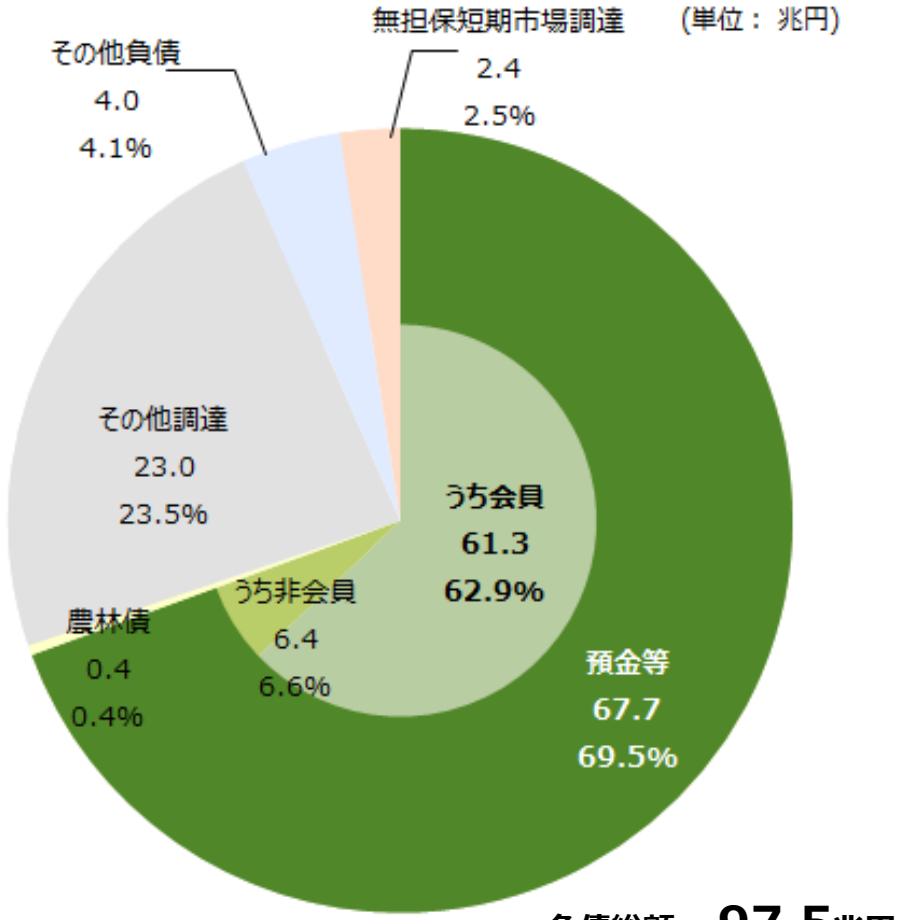
市場運用部門総資産 格付別内訳



資金調達の状況（単体ベース）

- **会員からの預金を中心とする安定的な資金調達を実施**

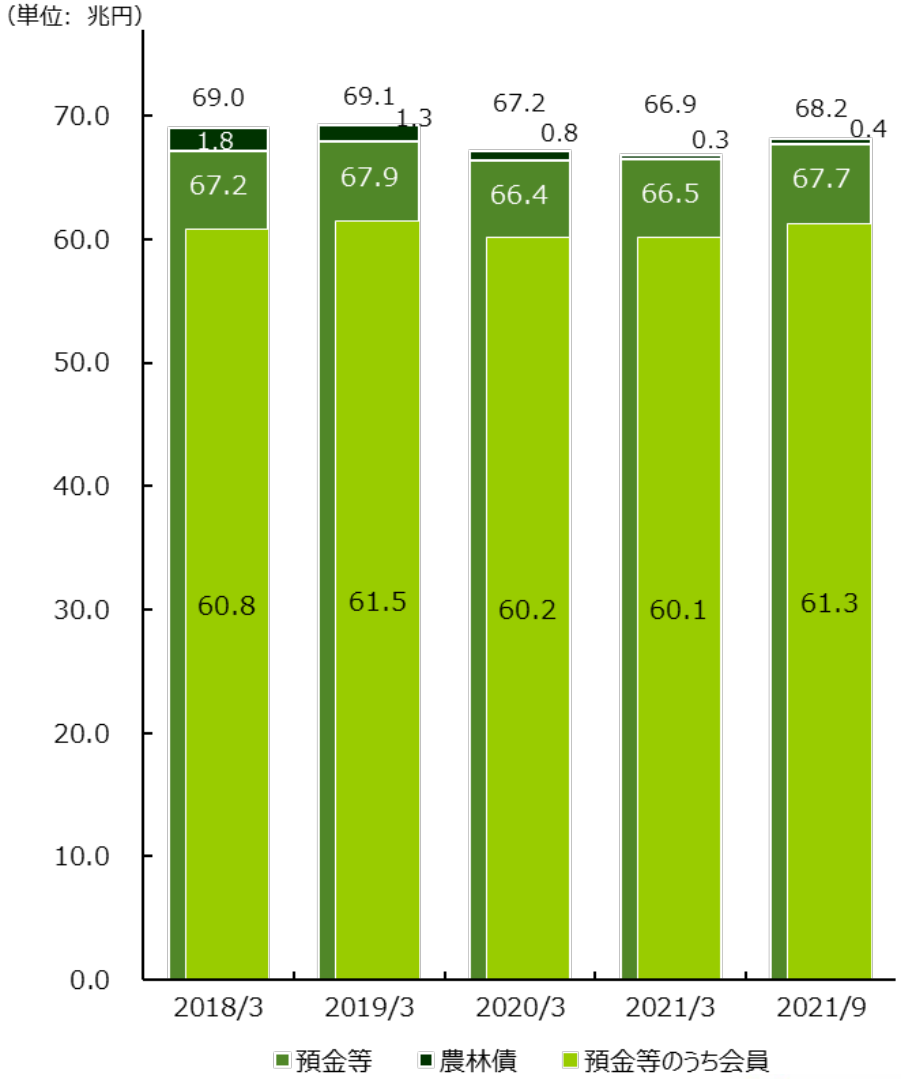
負債の種類別内訳



負債総額： 97.5兆円

注：預金等は会計上の預金と受託金（会員からの短期資金受入が大半）。その他調達は有担保調達である売現先勘定・債券貸借取引受入担保金、および借用金（有担保、劣後ローン）等。その他負債は支払承諾、引当金等。無担保短期市場調達は特定取引負債、譲渡性預金および無担保コールマネー等

預金等・農林債残高の推移



農林中央金庫

運用・調達利回り（単体ベース）

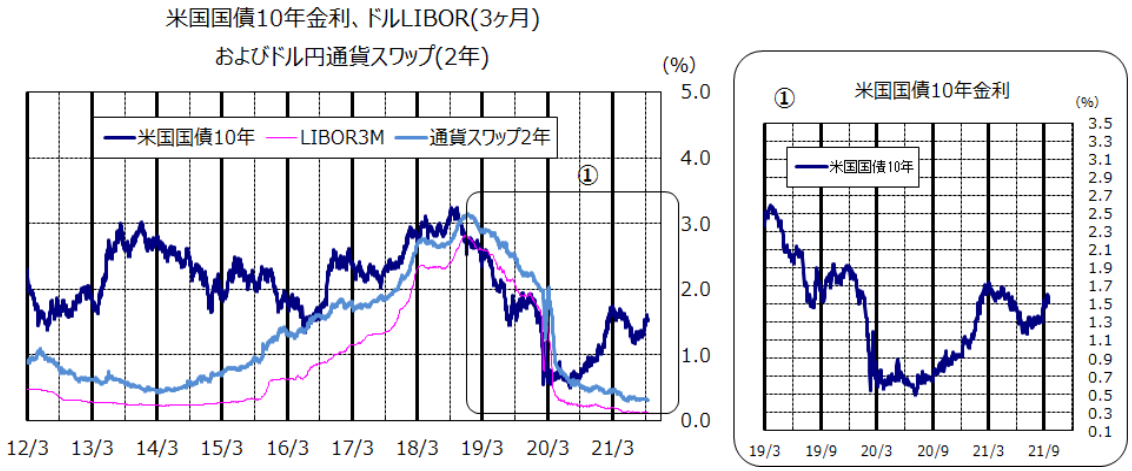
▪ 金利低下により、外貨調達利回りが低下し、外貨調達費用は減少

		平残（単位：兆円）		収支（単位：億円）		利回り	
		2021年度半期	前期比	2021年度半期	前期比	2021年度半期	前期比
	【運用の状況】						
1	貸出金	21.8	2.1	373	▲ 70	0.34%	▲ 0.11%
2	有価証券等	51.5	▲ 4.6	4,034	▲ 895	1.56%	▲ 0.19%
3	円貨建有価証券等（収支は売却損益含む※）	14.7	▲ 3.3	▲ 110	▲ 528	▲ 0.15%	▲ 0.61%
4	外貨建有価証券等（収支は売却損益含む※）	36.8	▲ 1.2	4,145	▲ 367	2.25%	▲ 0.12%
5	短期運用資産等	4.1	2.6	▲ 0	▲ 2	▲ 0.00%	▲ 0.03%

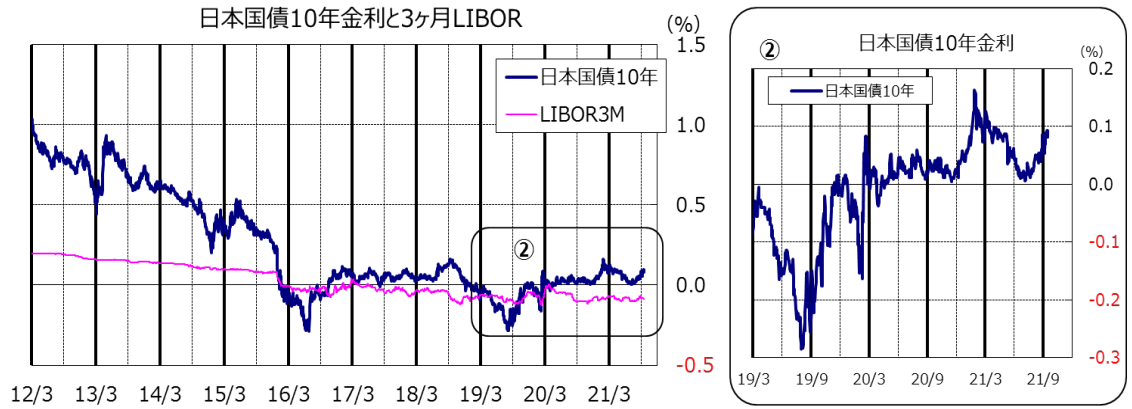
※売却損益を含まない円貨建有価証券等利回りは0.66%（前期比+0.03%）
※売却損益を含まない外貨建有価証券等利回りは2.27%（前期比+0.12%）

	【調達の状況】						
6	信連等調達	60.3	0.2	1,466	▲ 107	0.48%	▲ 0.04%
7	農林債券	0.3	▲ 0.3	1	▲ 3	0.10%	▲ 0.04%
8	市場調達	31.4	▲ 0.5	115	▲ 444	0.07%	▲ 0.28%
9	円貨市場調達	3.6	▲ 0.2	▲ 1	4	▲ 0.01%	0.02%
10	外貨市場調達	24.2	▲ 0.5	▲ 65	▲ 447	▲ 0.05%	▲ 0.36%
	（参考）						
11	外貨調達費用（通貨スワップ等含む）	40.6	▲ 2.1	266	▲ 899	0.13%	▲ 0.41%

（参考）米ドル金利の推移



（参考）円金利の推移



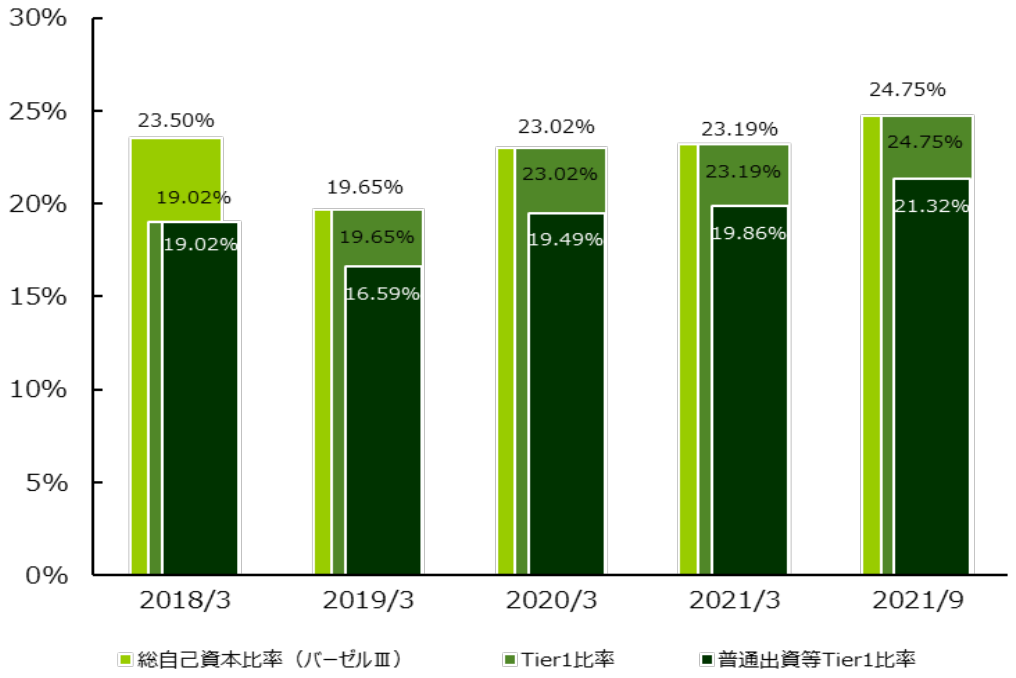
自己資本比率等

▪ 自己資本比率は引続き高水準を維持

【連結】 （単位： 億円）

		2021年3月末	2021年9月末	増減
1	Tier1	91,894	94,849	2,955
2	普通出資等Tier1（CET1）	78,724	81,709	2,984
3	うち資本金及び資本剰余金	40,152	40,152	-
4	うち利益剰余金等	20,413	21,372	959
5	うちその他有価証券評価差額金	19,485	21,187	1,701
6	その他Tier1	13,169	13,140	▲29
7	Tier2	11	12	0
8	うち劣後債務	9	9	-
9	総自己資本	91,905	94,861	2,955
10	リスク・アセット	396,224	383,146	▲13,077
11	普通出資等Tier1比率（CET1比率）	19.86%	21.32%	1.46%
12	Tier1比率	23.19%	24.75%	1.56%
13	総自己資本比率	23.19%	24.75%	1.56%

連結自己資本比率の推移



連結レバレッジ比率

		2021年3月末	2021年9月末
14	連結レバレッジ比率（注１）	10.19%	10.88%

注１：2020年6月30日付 金融庁・農林水産省告示改正に伴い、
総エクスポージャーの額より日本銀行に対する預け金を除外して算出

連結流動性比率

	2021年度	1Q	2Q	3Q	4Q
15	連結流動性カバレッジ比率（注２）	389%	487%	-	-

		2021年3月末	2021年9月末
16	連結安定調達比率（注３）	-	141%

注２： 項目15は対象四半期の平均値
注３： 項目16は2021年9月末より開示

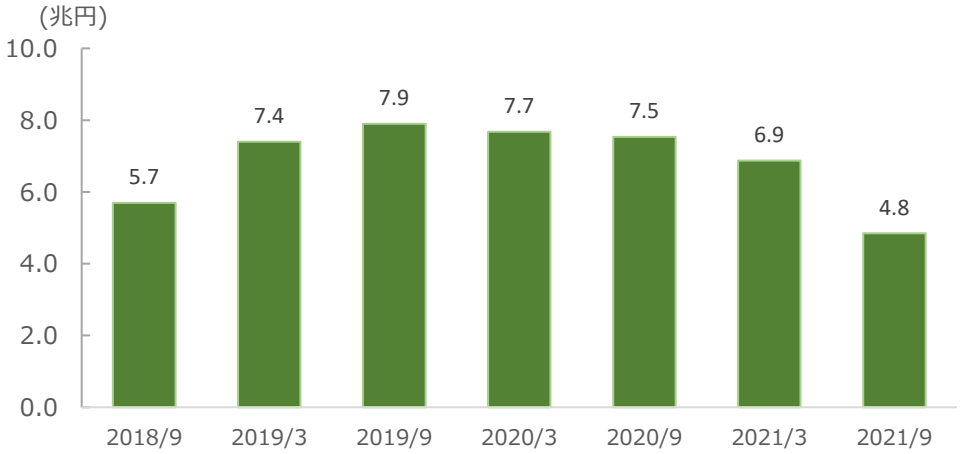
農林中央金庫

Appendix

市場運用資産(CLO)について

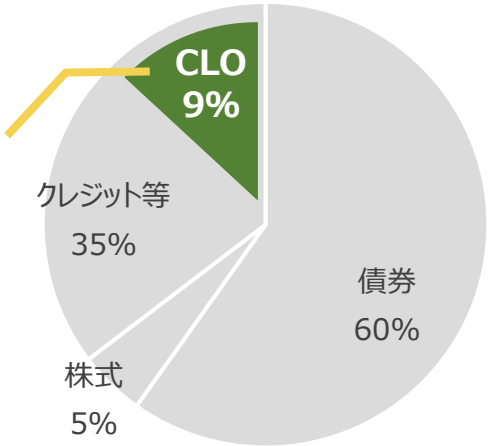
- **詳細な分析や適切なリスク管理態勢の下、リスク・リターンを勘案しながら慎重な投資を実施**

投資残高の推移



市場運用資産に占める割合・資産内容

- **市場運用資産の9%**
- **全てAAA格**
- **全て満期保有目的**



※四捨五入のため、各数値の合計が100%とならない場合があります

投資にあたっての分析・リスク管理

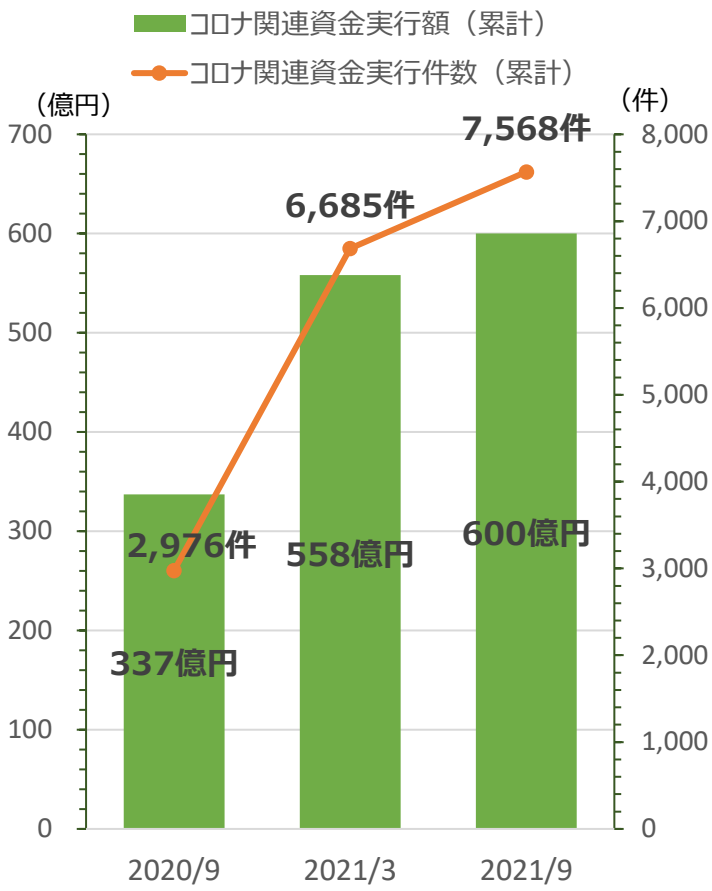
投資対象	• AAA格に限定
裏付資産	• 組入可能資産についての厳格な基準設定 • 裏付資産内の個別銘柄・業種の分析
ストラクチャー	• 信用補完水準等についての独自ガイドライン • 当金庫独自の厳格なストレステスト • ミドル部門による全件審査
運用マネージャーの選定	• 投資前のデューデリジェンスを通じた、運用能力・投資スタンスの確認
投資後のモニタリング	• マネージャーとの綿密なコミュニケーション • 投資ガイドライン遵守状況、運用方針、裏付資産の質等の確認

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う対応

- 業種・規模問わず幅広い取引先にて資金需要が発生。コロナ対策資金を創設し、適切な資金対応を継続

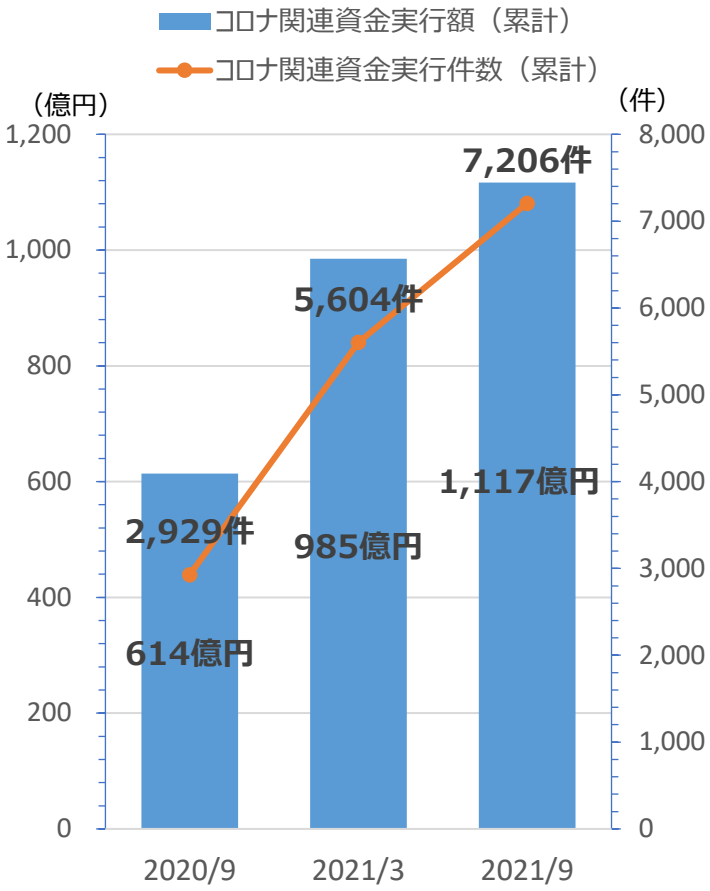
コロナ関連融資の対応状況

JAバンク



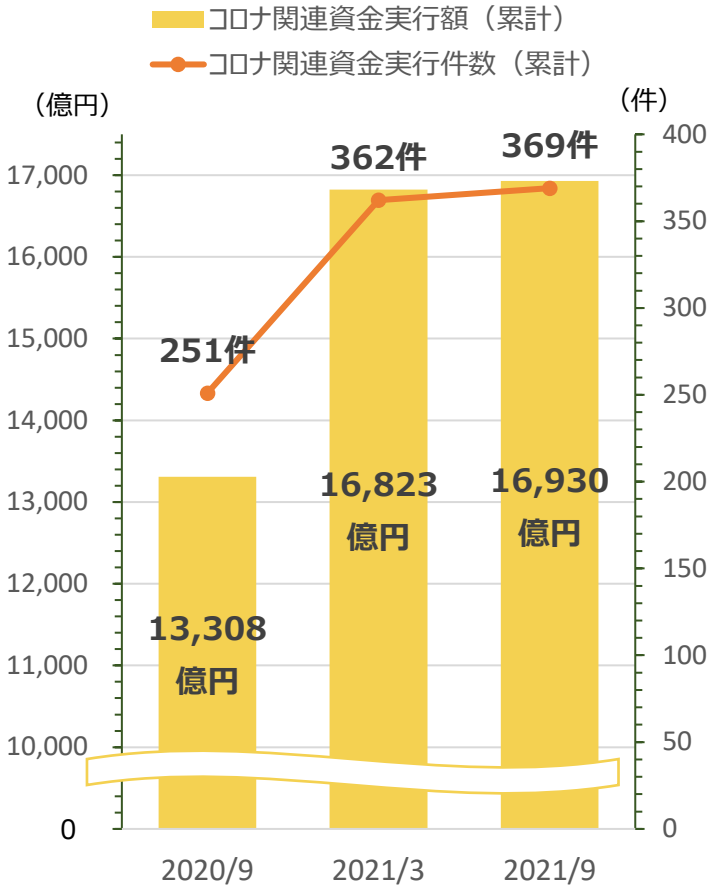
※ＪＡバンクはＪＡ・信農連・金庫のコロナ関連資金、公庫受託資金の合算

JFマリンバンク



※ＪＦマリンバンクはＪＦ・信漁連・金庫のコロナ関連資金、公庫受託資金の合算

農林中央金庫（一般事業法人向け）



※農林中央金庫のコロナ関連の事業法人向け貸付
※部・支店からの報告ベース

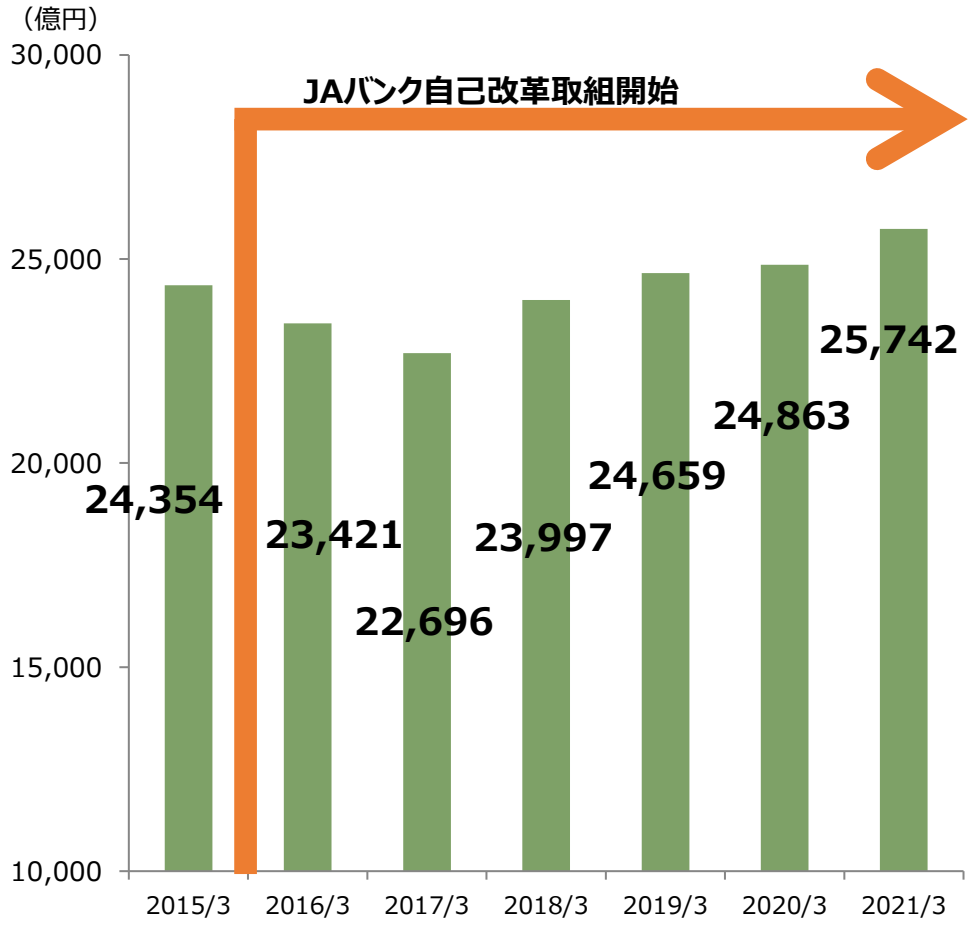
農林中央金庫

農業関連融資の取組状況

- JAバンクの農業融資は、実行額・取引社数ともに増加
- JAバンク自己改革開始後、農業関連融資残高は増加に転じている

農業融資新規実行額と取引社数の推移

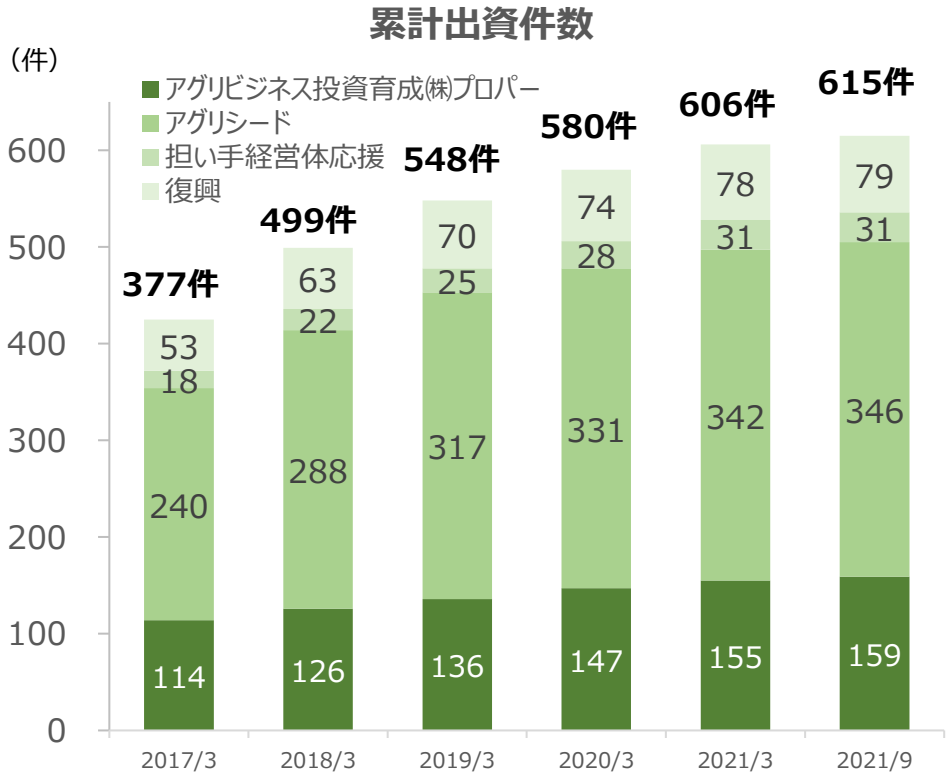
農業関連融資残高の推移

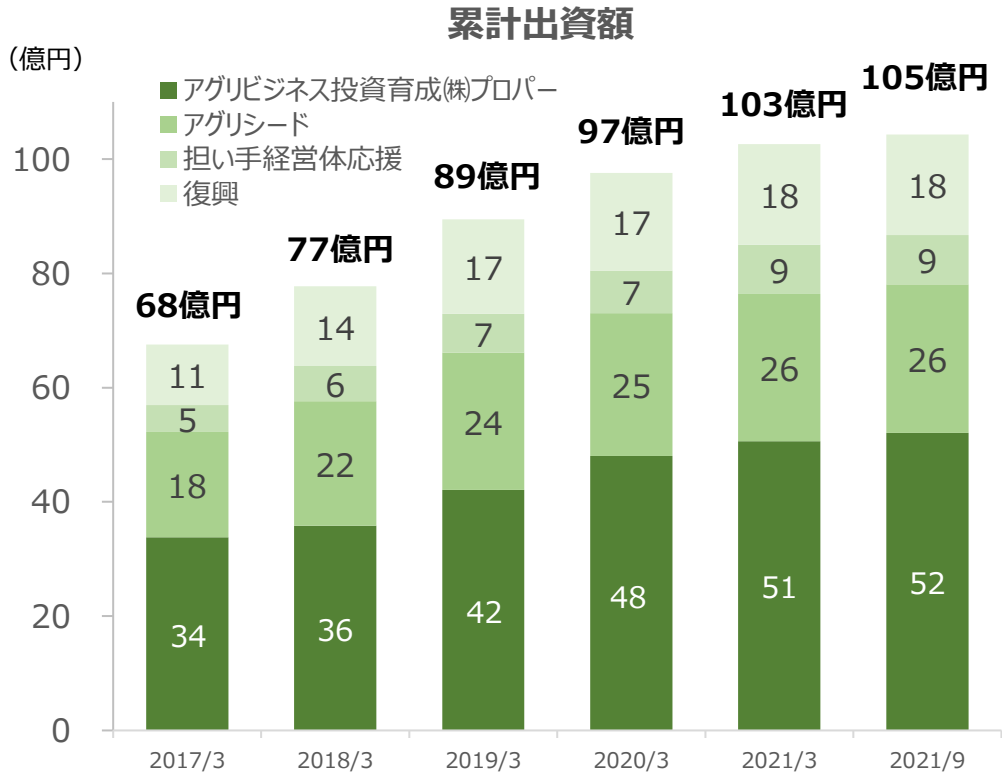


農業法人等へのリスクマネーの供給

- ファンドを通じた農業法人等への出資は累計615件・105億円。担い手の成長ステージに応じた資金ニーズに対応

アグリビジネス投資育成㈱を通じた農業法人等への出資実績





アグリビジネス投資育成㈱	農業法人投資育成制度にかかる業務を行うため、JAグループと日本政策金融公庫の出資により設立された法人
アグリシードファンド	技術力はあるが資本不足の農業法人等に対する、財務安定化のための出資(10百万円以下)を目的とするファンド
担い手経営体応援ファンド	農業法人等の規模拡大に伴う設備投資等のための大型出資(10百万円以上)を目的とするファンド
東北農林水産業応援ファンド（復興ファンド）	被災した農林水産業法人等への資本供与を通じた支援を目的とするファンド

サステナブル・ファイナンスの取組状況

- **2030年中長期目標を掲げ、その実現に向けた取組みを開始。サステナブル・ファイナンス上期実績は5,929億円**

2030年中長期目標

農林中央金庫投融資先等のGHG排出量削減
2030年までに▲50%（2013年対比）

農林水産業者所得の増加

- 農林中央金庫投融資先のGHG排出量削減
  2030年までに▲50%（2013年対比）
- 会員と一体となった森林由来のCO_2吸収
- 農林中央金庫拠点等のCO_2排出量削減
  2030年までに▲50%（2013年対比）
- サステナブル・ファイナンス
  2030年までに新規実行額10兆円
- 女性管理者比率
  （2030年までに13%、2040年までに30%）
  ※2020年3月末時点の実績　6.2%

サステナブル・ファイナンス新規実行額

2021年度上期新規実行額	中長期目標※	進捗率
5,929億円	10兆円	約6%

※2021～2030年度（10年間）の新規実行額累計

サステナブル・ファイナンスの取組事例

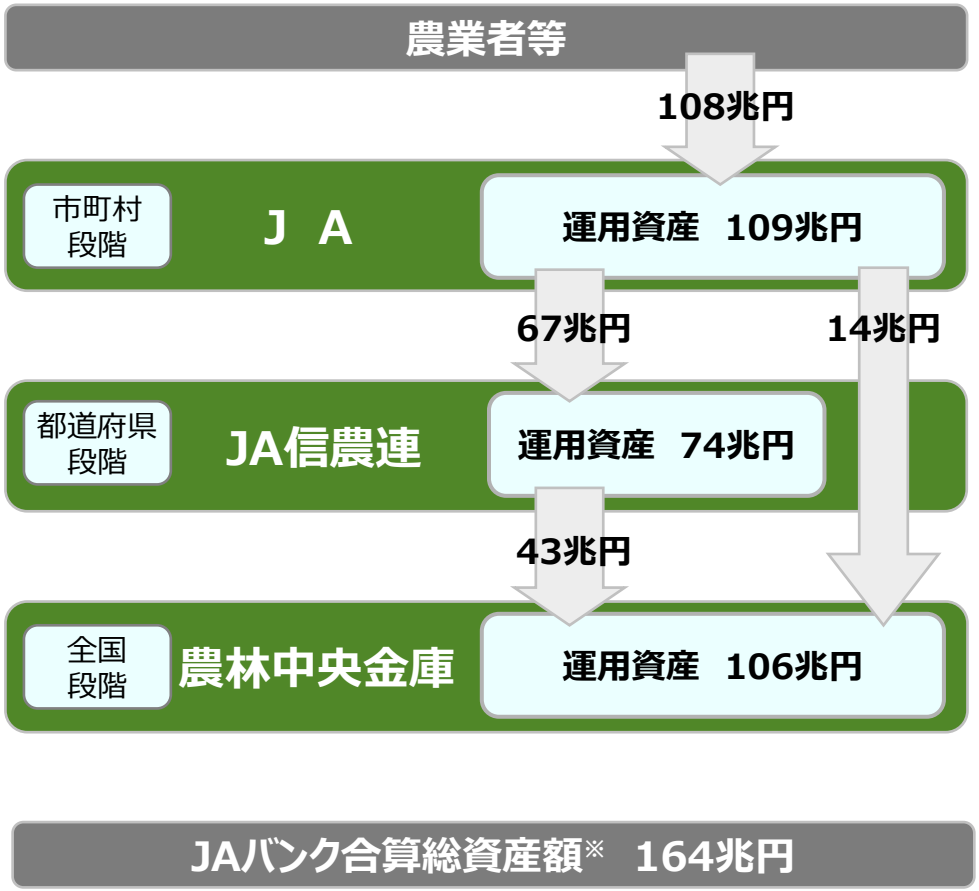
グリーンボンド	農林中央金庫として初のグリーンボンド10億米ドルを発行
グリーン・ローン	グリーンローン、ソーシャルローン、サステナビリティローンを創設。グリーンローン原則に基づく1号案件として、パレットレンタル企業に提供
サステナビリティ・リンク・ローン	JAバンク会員で組成するシンジゲート方式のサステナビリティ・リンク・ローン第1号案件を、金融・サービス企業に提供
海外投資案件	豪州ノンバンクが組成するグリーン住宅ローン債権プール(豪州初の全裏付資産が環境配慮型の住宅ローン)に対するファイナンスを提供

グリーンローン案件事例（パレットレンタル企業へ融資）

- パレットを複数企業に貸し出し、共同利用・回収を行うことで、輸送効率向上により全体で78%のCO2削減が可能となる
- 農林中央金庫はパレット購入資金を目的とするグリーンローンを提供

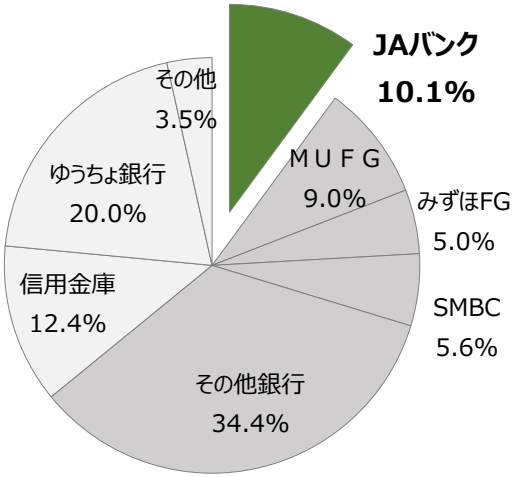
(参考) JAバンクの事業基盤

JAバンクにおける預貯金の流れ（2021年9月末）



※ 合算総資産額 ：運用資産－預け金

国内個人預貯金残高シェア（2021年3月末）

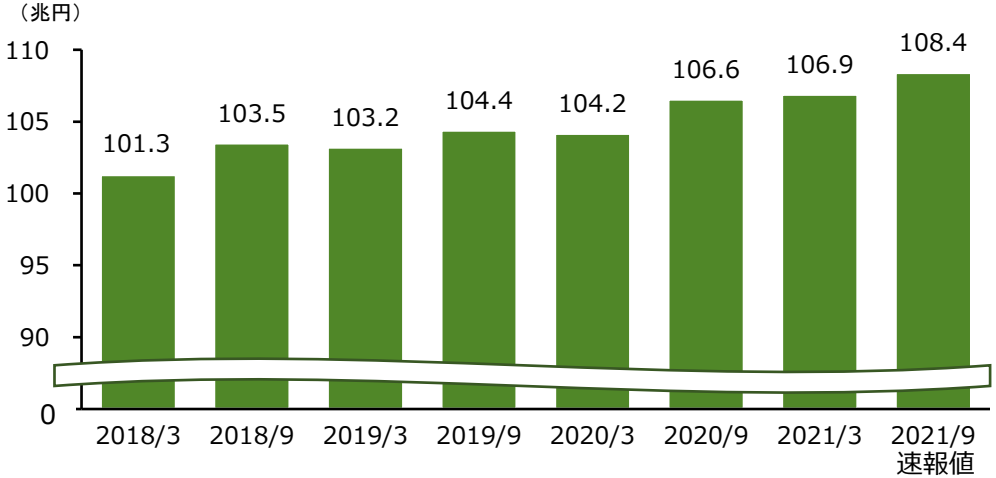


個人預貯金合計 948兆円

出所：日本銀行資料、各金融機関の決算説明資料をもとに農林中央金庫作成
JAバンク、国内銀行及び信用金庫の残高は個人預貯金、ゆうちょ銀行は全貯金額

※四捨五入のため、各数値の合計が100%とならない場合があります

JA貯金残高の推移



ご利用の皆様へ

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等についての検証を行っておらず、また、これを保証するものではありません。弊金庫は、本プレゼンテーション資料に記載されている情報の利用から生じる損害が直接的、また、間接的であるかに関わらず、何ら責任を負いません。

- 本プレゼンテーション資料には、弊金庫に関連する予想、見込み、見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当金庫が現在入手している情報に基づき、本プレゼンテーション資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提（仮定）の下になされています。これらの記述または前提（仮定）が、客観的には不正確であったり、または将来実現しない可能性があります。

- 本プレゼンテーション資料は、有価証券の販売のための勧誘を構成するものではございません。